

## 大阪体育協会名称変更の趣旨

大阪体育協会は、先人が守りつないできたスポーツを未来に向け、次世代に伝え継ぐために、2019年4月1日をもってその名称を「大阪府スポーツ協会」に改めることとする。

大阪体育協会は、前身の大阪体育運動連盟が発足した1931年から大阪府内におけるアマチュアスポーツ団体を統括する体育団体として87年もの長きにわたり府民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図り、もってスポーツの振興に寄与してきた。

この間、スポーツはそれ自身が驚異的な発展を遂げたばかりではなく、現代社会においては政治的、経済的、さらには文化的な側面からも、大きな社会的影響力を持つようになり、今や「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化」として、多くの人々に親しまれている。

スポーツが外国から取り入れられた当初、スポーツという言葉は体育、運動、遊戯、競技、武道、または球技等に適宜置き換えられ広く使われていた。その後、スポーツは学校体育等において教育の手段として用いられ、体育という言葉はスポーツを含むという広義の意味を持つものと理解され使用されてきた。

しかし、1964年の東京オリンピックを契機にスポーツが社会に広がりを見せ発展していく中で、スポーツという言葉が多用される時代となり、現在では広義に捉えれば、体育や武道また身体活動の概念を包摂しているものと考えられるようになってきている。

わが国においては、2011年に「スポーツ基本法」が施行され、2015年にはスポーツ行政の一元化を図るスポーツ庁が発足し、従前のスポーツ行政に加えて、健康寿命の延伸、地域社会の活性化、国際交流・貢献の促進、経済の発展に寄与することなども政策の柱とされている。公益財団法人日本体育協会もこれら時代の変化や動向に呼応し、本年2018年から日本スポーツ協会に名称変更を行っている。

このような中、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西が開催されるゴールデンスポーツイヤーを控え、府民のスポーツに対する関心や期待は一層高まりをみせている。

これらのことから、本会は時代の変化やスポーツをめぐる動向に鑑み、今後とも行政機関や関係団体などと、強固に連携と協力をを行いながらスポーツ振興事業を推進するとともに、スポーツという文化を後世に継承していくため、体育の概念を包摂している広義のスポーツという言葉をもって、本会の名称を「大阪体育協会」から「大阪府スポーツ協会」に改称するものである。

なお、本会は広域普通地方公共団体の総称である「都」「道」「府」「県」を付けず現在に至っていたが、「府」を付して「大阪府スポーツ協会」としたのは、本会が大阪府において広域的にスポーツ振興を図る唯一の公益法人としての役割をより明確にできると判断したからである。

2018年12月14日  
公益財団法人 大阪体育協会  
会長 牧野明次